



1歳児の心理学 (II)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-11-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤友, 雄暉 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00002979

1 歳児の心理学 (II)

藤 友 雄 暉

藤友(1980)⁽¹⁾は、両親による子どもの行動観察記録を資料として、一人の女兒の0歳児期の心身の発達について研究した。

また、藤友(1982)⁽²⁾は、同様の方法により、同じ女兒について、1歳0か月～1歳3か月の心身の発達について研究した。本研究は、藤友(1982)⁽²⁾の続編として、1歳4か月～1歳7か月の心身の発達について考察を加えることを目的とする。

(16) 1歳4か月

1979年1月29日(1・4・0)

何かを引きずって歩くことを好む。ピッキーモーの首に紐をつけてやると、それを引っぱって歩く。父親のランチジャーの紐を引っぱり、引きずって歩いて遊んでいる。

滑り台を座って滑るのが上手になった。従来は足でブレーキをかけるためにうまく滑れなかったが、今日は足でブレーキをかけることもなく上手に滑った。それだけスピードに対する恐怖心がなくなったのだろう。

ボールを投げる際に、ボールが後ろに行くことが少なくなり、前の方に投げられる。

クレヨンで遊ぶ。母親が紙に描くと、真保も描き始めた。母親が色を変えて描くと、自分と同じピンクを持たせようとする。

1月30日(1・4・1)

クレヨンで汚れた自分の手を、タオルで一所懸命拭いていた。ある種の清潔感といったものを持っているようだ。

夜、寝室と居間の間のふすまが1cmくらい開いていたのに、手を差し込んで開けることができた。

1月31日(1・4・2)

紅茶の空罐を玩具箱から3～4個持って来ては、じゅうたんの上に並べて置き、また片付けるのを繰り返して遊ぶ。一見単純に思えることでも、本人にとっては意味があるのだろう。

2月1日(1・4・3)

夕方、父親が帰ってくると一緒に遊びたがる。父親が新聞を読んでいると怒って、自分の相手をさせようとする。

母親が洗濯物をたたんでいると、たたんである物を母親に渡し、たんすにしまうように要求する。また、6畳の部屋に衣類、玩具などがあると自分で片付ける時がある。片付けることに興味を持っている。

おまるで大便をした後、おまるの中の大便を指差し、出たことを自分なりに確認しているようだ。小便に関しても同様だが、こちらは、おまるに座る前に出てしまっている事が多い。小学生の子ども達遊びに来たので、おやつにホットケーキとジュースを出す。子ども達がフォークで食べているのを見て、自分も模倣して食べようとした。差すのは容易にできたが、差し過ぎてホットケーキがなかなか口に入らなかったり、うまく口に運べずに落してしまったりした。母親が手助けをして食べたが、面倒くさくなったのか、次からは手でつかんで食べた。まだ、フォークは危いみたいだ。ジュースは両手でコップを持ち上手にこぼさずに飲めた。

2月2日(1・4・4)

テレビで「野生の王国」を見た。アフリカに取材したものだったが、獣が出てくると大喜びで、「ワンワン」「ワンワ」「ワー」と言った。「ワンワン」をまだ広い範囲の動物に使っているようだ。

2月3日(1・4・5)

夜、節分の豆まきをした。母親が鬼の面をかぶると、泣き出してしまった。恐いらしい。自分で枀を手を持って、豆を投げては喜んでた。全部投げてしまうと床の上の豆を拾って枀にためては、また投げていた。

2月4日(1・4・6)

餌を食べに来た鳩に「トット」を連発していた。安定して出ているのは、「パパ」「ママ」、犬などに対して「ワンワ」、鳥一般に対して「トット」、カラスに対して「カーカー」である。また、母親が「ふうせん」と言うと、「ふうせん」と言った。構音能力も伸びてきている。

2月5日(1・4・7)

紅茶の空罐のふたの上に、緑のクレヨンのをせて食べる真似をして遊んだりしていたが、そのうち歯でかじりだし、口の中に入れてしまった。母親が出して、クレヨンは描くものであることを教えると、画用紙を要求して描いた。従来はなぐり書きをするだけだったが、今日は、一個所を塗りつぶした。

食事の時に、汁物を容器から容器に移し変える事を好み、食べるのが一段落すると必ずやる。成功率は高くなったが、それでも、一回はこぼしてしまう。

2月7日(1・4・9)

外の雪の中で遊ぶことを好む。雪をシャベルで突つつく。雪をつまんで投げる。庭に作った雪山を叩いたり、穴をあけたりする。そりに乗る。いぼたの上に積った雪を落とそうとする。節分の日に体験した豆まきが、余程気に入ったらしく、夜、自分の毛糸の帽子のてっぺんについている毛糸の玉を引っぱっては、「アーアー」と言いながら、部屋中にまきちらした。動物、それも主として獣と鳥に異常な興味を示す。テレビに映ると画面の前に走って行き、「ワンワ」を連発している。

2月8日 (1・4・10)

近頃水に大変興味を示し、水仕事をしているとやりたがって困る。今日も、洗濯機の排水口から出る水に手を出し、パチャパチャやり始めた。そのうち排水ホースを上下に動かして水びたしにする。着替をした後、またやろうとしたので、ふすまを締めてしまったら、泣き出してしまった。夕食の時、父親が座布団に座っていると、真保も座布団を引きずり出そうとした。父親が敷いてやると喜んで座っていた。人と同じ様にしたいようだ。

2月9日 (1・4・11)

おむつをいやがるので、パンツにしたり、ズボン下のみにする。出そうな時は手を下にやり母親に知らせるが、タイミングがなかなか合わない。おむつをしていないと動きがスムーズになるらしく、良く動くようだ。おむつが外れると一般に言われる時期が近づいている。

2月10日 (1・4・12)

夕方、手にしていた薄板状のチーズを真保が投げたために、父親が「だめ」と言って手を叩いた。するともう一度投げたため、もう一度手を叩いた。すると真保は床にうつ伏せになって「ワー」と泣き出した。叩かれたのが痛いのではなく、いつもと違う父親の様子、叱られたことに対して恐怖感を持ったようだ。

2月11日 (1・4・13)

父親とじゃんけんをした。パーを出すことが多い。一番指の形として出しやすいのだろう。父親が「じゃんけんポン」と言いながらやると、真保も「じゃんけん」と言う。絵本「わたしのワンピース」を読んであげたところ、花や鳥の場面で、「ワンワン」「トット」などと声を出しては指差していた。3回ほど繰り返して読むことを要求した。花や鳥などの、大きな絵よりも、小さな絵に良く反応するのは、幼児は、大きな全体反応よりも、小さな部分反応の方が得意なことと関連があるのかも知れない。

2月12日 (1・4・14)

母親が朝食の準備をしている時に、キャベツを包んだラップをきれいに外してくれた。器用になってきている。

朝食の時に、コップを両手にかかえてミルクを飲んでいたが、座卓の上にこぼしてしまった。すると「ママ」と言って台所に居た母親を呼んだ。

2月13日 (1・4・15)

夜、懐中電燈に電池を入れて遊んでいた。必ず十極を下にして入れる。一極が下になると持ち変えて十極を下にして入れる。2個しか入らないのに、どうしても3個入れようとして、かんしゃくを起したりしている。

2月15日 (1・4・17)

母親が布団を敷く時に、押入れの上段に上り、両手を後頭部にやる、手を鼻、口、目などにやる、両手をついて、両足の間から顔をのぞかせる、体を左右に動かす、両手を背中にやるなどの動きをしては、母親にその真似をさせて遊ぶ。身体表現が豊かである。

2月16日(1・4・18)

小学生四人が、小犬を二匹連れて遊びに来た。真保は玄関で見ると、「ワンワン」と大きな声を出して、興奮して近づく。小犬の方も真保の顔をなめたり、「キュンキュン」なきながら甘える。真保はパンなどを手から直接口へと食べさせた。犬と一緒に自分も食べたり、犬を叩いたり、抱いたり、大喜びで大変な騒ぎだった。犬が帰ると泣き出してしまった。犬と自分の間にへだたりのない親近感を持っているようだ。

2月17日(1・4・19)

以前、絵本は「おふろ」(山元護久ぶん、加藤晃え、福音館書店)を好んでいたが、最近、「わたしのワンピース」(にしまさかやこ絵とぶん、こぐま社)を好んでいる。鳥が出てくるのが特に気に入っているようだ。毎日鳩に餌をまいている体験と結びついているのかも知れない。「ともだちだーれ」「あけてみたいな」(角田巖ぶん、角田昭子え、文化出版局)も、イナイイナイバー遊びをしながら楽しんでいる。

2月18日(1・4・20)

人の背中や肩を手で叩き、自分の方に向かせる。

2月19日(1・4・21)

テレビで画面全体にアップで人の顔が映ると恐がる。

今日は、ミュージカル映画「ハロー・ドリー」を放映していたが、歌と踊りの場面は、体を動かしながら面白そうに見ていた。

2月23日(1・4・25)

夕方、父親が帰宅すると、大喜びでまわりつく。

ビーチボールの栓の部分を手と口を使って外し、空気を抜いた。そして、今度は吹いて空気を入れようとしたが、要領がつかめずになかった。

2月24日(1・4・26)

朝、父親が顔を洗っていると、自分も抱いてもらって手を洗うことを好む。また、夜、父親と一緒に入浴するが、髪を洗うのをいやがり、暴れる。足で蹴る力や、体をのけぞらせたりする力が強いので大変だ。

2月25日(1・4・27)

玩具箱の中の絵本を引っぱり出して来ては、両親に読んでくれることを要求する。

父親と一緒に布団の中にもぐりこみ、もぐらの様に動きまわり、中で出くわすことを喜ぶ。もぐら遊び、または、トンネル遊びとでも称すべきものだろう。

2月26日(1・4・28)

夜、自分が食べていたパンを、起き上りこぼしの口元に持って行き、食べさせようとしていた。生物とそうでない物の区別がはっきりついていない。

2月27日 (1・4・29)

外出の際、母親は真保をおんぶし、その上からコートを着ていた。真保は自由に自分の手をコートから出したり、入れたりできる。母親が「手の中に入れなさい」と言うと、中に入れる。言語理解ができています。

真保が、手を頭、ほっぺた、足の方などに次々と移動させて次々と変える仕草を、父親などが即座に反射的に模倣してやると大喜びする。反射遊びとでも称すべきものだろう。

1歳4か月児は、運動機能では、投げる動作が目立っている。生成言語は「パパ」「ママ」「ワンワ」「ワンワン」「トット」「カーカー」などであり、絵本を読んでもらうのを好むのは、物と言葉の結びつきが強くなっていることを示しているのではなかろうか。構音能力も伸びている。水や身体表現による遊びなどを好み、犬や鳥などに異常な関心を示す。おむつを外して、パンツなどを着用する生活が始まっている。生活全体において動きも活発であり、能動的な姿が見られる。

(17) 1歳5か月

2月28日 (1・5・0)

水遊びを好み、母親が台所に立つと、足にしがみつき片手を上げて水にさわりたいと要求する。昼あまりに要求するので、椅子の上に立たせて、母親と共に食器洗いをする。ごみ入れの三角容器にごみがたまると、バケツに捨てさせる。夕食の仕度が済んだ後も、椅子を持ち台所に行こうとする。母親が気づくと台所まで椅子を運ばせる。そして水道から水を流して遊ぶ。いろんな食器に水を入れて飲む。ついには洗った食器を全部水につけてしまう。

夕食の時に、父親の酒肴の皿に入ったイカの塩からを、スプーンですくっては、他の皿の料理の上にかける。いずれも、生活の中に遊びがある。

3月1日 (1・5・1)

食事の時に、つま楊子で差して食べることを好む。パンなども、つま楊子で突き差して、持ち上げては食べている。夕食の時に、父親のビールの入ったコップを取ろうとして、母親から「だめ」と叱られた。ちょっとした間、がまんしてたが、ワーと泣き出した。

洗面器の湯の中に手をつける時に、左手で右手のシャツの袖をひじの所までたくしあげた。いつも親がしてあげていることを、覚えたのだろうか。

眠くなってきた時や、テレビなどに夢中になっている時は、人差し指をしゃぶっている。

3月2日 (1・5・2)

テレビを見ながら、滑り台の階段を後ろ向きに上った。

3月4日 (1・5・4)

アスファルト道路に影が映っているのを見て、不思議そうに見る。立ったり、しゃがんだりして影が変化するのを見る。

体操をする時に、体をそらす動作をするようになった。

3月5日 (1・5・5)

母親とデパートに出かけた。嬉しいらしく、あっちへ行ったり、こっちへ行ったり、ちょこちょこよく歩く。時々振り向いては、母親が居ることを確かめる。鳥や動物の玩具には、「アッアッ」と言って触っていた。

3月9日 (1・5・9)

栄養摂取は、離乳食と母乳によっている。母乳の回数を減らすために、昼間はなるべく与えないようにしている。そうすると、泣きじゃくり、物を投げたり、暴れたりして、母親の胸元をさぐろうとする。母乳を拒否されると、心理的な不安定感を生ずるようだ。

3月10日 (1・5・10)

午前中に、郵便局に出かけた。郵便局の中に置いてある金魚には、前ほどには興味を示さなかった。もっぱら、手で床を掃く真似をしながら、「アッアッ」「マーマ」などと言って、勝手に動きまわっていた。帰り道で犬の鳴き声が聞こえると、手を耳にやり、その声がする方へと歩いて行った。遊びに来た小学生の女の子が、玩具の太鼓を叩くと、真保も真似をして叩いた。2本で叩いたり、1本で叩いたりなどしていた。

3月11日 (1・5・11)

普段は昼間は母親と二人だけで過しているためか、日曜日は父親と一緒になのが嬉しいのか、いつもより機嫌がいい。

3月12日 (1・5・12)

洗濯物を母親が干していると、一緒になってやろうとする。抱いて干させると、とても喜ぶ。

3月13日 (1・5・13)

母親と一緒に買物に出かける。鳥が飛んでいるのをみつけると、直ぐに指差して止まる。石をみつけると直ぐに投げるなどで、なかなか進まない。歩きながら体操をしたりする。帰りは菓子袋を持って歩く。車を全く恐がらない。通り道の家に入って行こうとする。電気工事の人が二人来た。真保は、6畳の部屋のベットの柵の所に隠れるようにしていた。一人の人が真保を見つけると、泣き出してしまった。しかし、母親が抱くと少しして落ち着いた。やはり、恐怖感を抱くようだ。

3月14日 (1・5・14)

クレヨンなどは出したままにしているが、遊んだ後の玩具は元あった場所にきちんと戻している。一人で風船を飛ばしては、つかまえての繰り返しをして遊んでいる。

3月15日 (1・5・15)

理解言語が伸びている。母親が「鳩さんにえさを上げようか」と言うと、直ぐにパンを取りに行こうしたり、投げる仕草をする。その他に「パパの所に持って行って」「パパが帰って来たかな」「ちょうだい」「だめです」「とってちょうだい」などに適切に反応する。

3月16日(1・5・16)

ちょっとした音にも敏感で、直ぐ手を耳の所にやって、何の音かを確かめる様な仕草をする。

3月17日(1・5・17)

餅をちぎって食べる。

小学生の女の子二人と一緒にお店屋さんごっこをして遊ぶ。子ども達の会話や問かけが少しずつ分かってきているらしく、言われる通りに、物を買ったり、おつりをもらったりできる。また、車に乗り後ろから押してもらったり、父親と廊下で風船投げをして遊ぶことを好む。

3月18日(1・5・18)

午後3:00過ぎ、小中学校の先生をしている卒業生の男子二人が来訪した。父親に抱かれた状態で二人をじっと見ていたが、泣かなかった。

ペットシュガーを袋からコップに入れ、手を突っこんで指先につけたり、飲む真似をしたりする。遊びに来る小学生達が、駄菓子屋から買って来た粉末ジュースをコップに入れ、指先につけてなめたり、水を入れて飲んだりしているのの真似のようだ。

母親が真保にパンツをはかせて、「パンツ」と言うと、真保も「パンツ」と言う。

3月19日(1・5・19)

障子を開いたり閉じたりする。

3月20日(1・5・20)

郵便局で、金魚を見つめて「トット」と言う。また、母親がうっかり長靴を左右反対にはかせてしまったところ、真保は「アッアッ」と言い、長靴を指差して知らせた。理解言語も伸びている。母親が「電話をしなくちゃね」と言いながら、電話帳をめくり始めると、真保は滑り台の下から、自分の玩具の電話を引っ張り出した。「ママにあげて来て」と言うと、別の部屋に居る母親の所に持って行く。「捨てて来て」と言うと、屑かごに捨てる。「みかんを持ってこよう」「パパお出かけよ」「ごはんにしましょう」なども理解できている。

3月21日(1・5・21)

人に何かをすすめる時に「どうぞ」と言う。今朝も、パンにバターをぬり、父親に「どうぞ」と言っていた。まだ「どうじょ」と聞こえる。

母親がホットケーキを作っていると、真保はやりたがり、泡立て器で粉をかきまわしたり、焼いたりして何とか作り上げる。その他、だしの素を入れたり、ジャーの御飯をよそって入れたがったりもする。

玄関先の約15cmの段差を一人でなかなか降りられず、尻もちをついたり、つまずいて転んだり、「ママ」と言って助けを呼んだりしていたが、柱につかまりながら一人で降りれる様になった。中学校の卒業式を終えたばかりの従姉が来訪した。泣きはしないが、母親の側を離れない。従姉がさりげなくしていると真保も平気な様子だが、見つめられると調子が悪くなり、母親や父親の所に行く。

3月22日(1・5・22)

ラーメンの食べ方が上手になり、よく食べる。かまないで呑みこむために、時々むせることがある。

3月23日(1・5・23)

鏡の前で百面相をしたり、体を動かしたりしていることが多い。今日も、タオルを頭にかぶって遊んでいるうちに、鏡の前に行き、そのタオルを色々動かして遊んでいた。

3月24日(1・5・24)

テレビのスイッチをいじって遊ぶ。特に音を大きくしたり、小さくしたりすることを好む。

3月25日(1・5・25)

この4月に中学2年生に進級する従兄が遊びに来た。

長身なので真保には巨人の様に見えるのか、驚いて泣いてしまった。従姉が従兄に教えていた真保と馴れる方法は、①あまり見つめないこと、②真保の真似をして遊んであげること、③少しずつ馴れるようにすること、であった。どれも的を得ている。

3月26日(1・5・26)

夜1時間ほど、従姉の部屋に行って遊ぶ。従姉の荷物などを触ったり、開けたりする。真似ごっこをしたり、体を動かしながら「アア、ウーウ」と喃語で歌ったりする。すっかり馴れたようだ。

何を言っているのか判然としないのだが、両親などに対して話しかけてくることがある。

大人用のスリッパを右足に引っかけて歩く。

3月27日(1・5・27)

パジャマの犬の顔、ズボンのアップリケに気づき「ワンワン」と言う。また母親が台所に立っていると、スリッパを持って来てはくように要求する。

食事の時に、口が汚れると、手拭きなどで拭く。手も汚れると拭いたり、拭いてもらうことを要求する。

従姉が、真保の玩具箱の玩具で遊んでいると、それを取って自分で遊ぶ。従姉が他の玩具を取ると、また、それも取って遊ぶ。人が持っている物が良く見えるらしい。

3月28日(1・5・28)

従姉が帰京した。空港まで見送りに行った。ガラス張りのドアが気に入る、叩いたり、眺めたりしていた。遠くの方には行かずに、母親の側を歩きまわり、どこかに行きたい時は母親の手を引っばる。土産店の木彫の熊を見て「ワンワン」と言う。従姉が乗客待合室の方へ去っていくと、バイバイと手を振っていた。

夕方からは親子3人で、卒業生同士の結婚披露宴に出かけた。花嫁さん、ボーイさん、照明などに興味を示し、父親が挨拶している時は、ずっとそちらの方を見ていた。のり巻、肉、スープ、牛乳かんなどを食べていた。歌が始まり、手拍子が入り始めると、一緒になって手を叩いていた。

1歳5か月児は、運動機能では、風船を飛ばしてつかまえたり、キャッチボールをしたりなどを好み、空中にある物体をつかむことができる。言語では、語彙量の増大は余り見られないが、理解言語の伸びは著しく、生活に必要な基本的な会話は理解できている。母親の家事の中に遊びを見出し模倣する。対人関係では、母親はまだ安全基地として存在しており、未知の人に対しては、その人、その状況により泣いたり泣かなかったりする。

(18) 1歳6か月

3月29日 (1・6・0)

以前から滑り台の滑る部分を下から左手をふすまに突きながら歩き上っていたが、今日は、右手をふすまに突きながら、上から歩き下って遊んでいた。滑り台一つでも、色んな遊び方をする。

3月30日 (1・6・1)

テレビで「みなしごハッチ」を見ていたが、途中で泣き出してしまった。色んな昆虫が漫画に描かれて出て来るのだが、それが画面にアップで出てくると恐いようだ。またUHF用のチャンネルを回して遊ぶことを好む。画像が出たり消えたりするのに興味を持っている。父親がスイッチを切り、差し込みを抜いてしまうと怒って泣き出した。

4月1日 (1・6・3)

絵本を自分でめくり、何かしゃべりながら見ている。絵を指差していることもある。従兄は帰京した。

4月3日 (1・6・5)

朝食の時に、真保が手にしていた卵焼を投げたので、父親が「食べ物も投げてはだめ」と叱って、手を叩いた。真保は目に涙をためて、泣きたいのをがまんしていたが、母親の側に行き、今度は積木を投げて母親の反応を見た。風船やボールは投げて遊ぶのに、食べ物など物によっては叱られることが、納得がいかないようだ。

人の真似をよくする。軍手をはめて、母親と同じように水道の元栓を締めようとする。屑かごの底に新聞紙を敷こうとする。父親の手袋を手にはめて喜ぶ。また、父親が雪かきをしていると、自分のスコップですくった雪を、父親の使っている大きなスコップの上のにせる。自分も雪かきの手伝いをしている気分なのかも知れない。

くしゃみをした真保は、自分で自分のカーデエガンを着ようとした。

4月4日 (1・6・6)

玄関が開いていた時に、自分で自分の長靴をはき外に出た。そして、ぬぐ時も、自分でぬいで部屋に上って来た。また、台所に置いてある風呂用の灯油タンクの上を上り、そこを足場にして流し台の上に乗る。

自分の意志を主張するために、両親と争う場面がふえている。たとえば、おむつをするのをいやがって逃げまわったりする。

4月5日(1・6・7)

アルミサッシの取付け工事をする人達が来たら、真保は部屋のすみに隠れるように立っていた。自分にとって何か異常な状態であると察知しているのだろう。

歌を歌っている様な口調で何か言いながら、体や四肢を動かす。言葉をしゃべること自体を楽しむ言葉遊びの様にも思える。その言葉につられて、体が動くのかも知れない。また、夜に母親と一緒に幼稚園ごっこをしていたが、「滑り台で遊びたいですか」と言われると、真保は滑り台の所に行き、同様に「風船で遊びたいですか」と言われると、風船を指差し、「積木で遊びたいですか」と言われると、積木を指差し、「りんりんで遊びたいですか」と言われると、玩具の電話で遊び、「絵を描きたいですか」と言われると、画用紙を指差し、「キューピーさんで遊びたいですか」と言われると、キューピーを指さす。「わたしのワンピースを見たいですか」と言われると、8冊立てかけてあった絵本の中から、その絵本を持ってくる。この様に、物と言葉との結合ができていく。

4月6日(1・6・8)

約2kgの自動車の乗物を、両腕にかかえて歩きまわる。

4月7日(1・6・9)

風船をふくらませて、口を離すとプーという音を出しながら空気が出てくる。それが面白くて父親に何度もやらせる。

4月8日(1・6・10)

掃除器のコードを引き出して、ボタンを押して巻きこんで遊んでる。また、午後來客が二人あったが、客が残したハイライトの紙箱を屑かごに捨てたら、真保は拾って来て、破いて遊んでいた。父親も母親も煙草を吸わないために、その紙箱も珍しいのかも知れない。

風呂場の入口の板の引き戸を閉じることができた。開けることはまだうまくできない。

4月9日(1・6・11)

夜、父親と一緒にゴムボールを、ビニール製の人形にぶっつけて遊んでいたが、うまく当たらない。目標に当たる様に調整して投げることは難しいようだ。

4月10日(1・6・12)

小学生の女の子達と家の前の公園で遊ぶ。母親が呼びに行くと帰るのをいやがる。滑り台などをして遊んでいた。

4月11日(1・6・13)

朝食の時に、父親が食べたサラダが入っていたガラス器に、サラダオイルが残っていた。真保がそれを飲んでいるのを見て、母親が「真保ったら、サラダオイルを飲んでいる」と言って笑った。すると、真保は怒ってガラス器を投げた。笑われて怒ったのは始めてだ。自分が笑われてしまったということが分かるようだ。情緒の分化がさらに進んでいる。

夕食後、大人用スリッパを両足にはいて、歩いて喜んでた。また、遊びに夢中になっている時など、「がっき」「ばっち」「がっこ」などと言っている。

4月12日 (1・6・14)

毎日、父親がソファーに座って、本を読む姿を見ているせいか、真保も小字典を持ち歩く。そして、ソファーに座って、両手で父親と同じように小字典をひろげてはながめている。夜、滑り台の滑る部分を下から、後ろ向きに立った状態で後退して行きながら、上まで登った。

4月13日 (1・6・15)

食事の時には、父親の膝の上に座って食べることを好む。今日も、父親が新聞を読んでいると、自分も横で小字典をながめ、父親が食卓に座るのを待っていた。

4月14日 (1・6・16)

母親が流し台の前に立ち、水仕事を始めると、自分も側の灯油タンクの上に上って、同じ様なことをしている。

4月15日 (1・6・17)

コップに入った牛乳を、ストローで吹いては、あぶくの立つのを見て喜んでた。テレビでしゃぼん玉をしていたのを見ての真似のようだ。

4月17日 (1・6・19)

母親とデパートに出かけた。プレールームでは、しばらく他の子ども達の遊びを眺めた後、並行遊びの状態、大きな積木に登ったりして遊び始めた。他の子ども達が帰った後、自分一人になると、ますます活発に動きまわり、にこにこしながら遊んでいた。電池で動く動物や、楽器を叩く猿などは恐がっていた。

4月18日 (1・6・20)

テレビの「おかあさんと一緒」の中に、幼児がパジャマを着て見せる「パジャマでおじゃま」というコーナーがある。真保も自分の衣類を持って来て着ようとする。ベストは首から、パンタクルはしゃがんで両足から着ようとしていたが、なかなかうまくできない。すると、ベストを脱いで、それを足の方を持って行き、パンツをはくようにして着た。何度もやっては喜んでた。話し声が聞こえてくるおしゃべり電話の声に対して、昨日、母親が「はい」と答えていたところ、今日は、同じ様に真保も「はい」と答えていた。

4月19日 (1・6・21)

真保がおむつをいやがる時など、キューピーの人形におむつをさして、母親が「キューピーさんえらいわね」と言う時、真保も一緒にやってもらおうとする。母親がキューピーに話しかけると気になるらしく、直ぐに近寄り、自分も仲間に入れてといった感じで入って来る。布団を敷く時には、キューピーを抱いて敷き布団の上に横になったり、転がったりして遊ぶ。また、自分の食べている物などをあげたり、汚れたりするとタオルで拭いてあげたりもする。キューピーが競争相手でもあり、友達にもなっている。

サイドボードのガラス戸を開けることができるようになった。掌をガラスにくっつけて開ける。

4月20日（1・6・22）

洗濯機の脱水に興味を示し、ふたを開けたり、背伸びをして手を入れようとしたりする。風呂の浴槽にも同様の興味を示す。

小学生の女の子三人が遊びに来た。ベルトをして遊んでいると、真保も母親にベルトを要求し、一緒になって腰につけようとしたり、体に回して遊んでいた。また、母親や小学生の女の子達が、何かちょっと失敗すると、真保は笑い声を上げる。それだけ、場面を理解できている。

4月21日（1・6・23）

母親と一緒に風呂に入った。母親が体を洗っているのを見て、真保は自分もタオルを持ち、顔や腕、腹などを拭き始めた。浴槽の中では、せっけん箱などで遊び、父親がいつもする様に、数を数えるように要求した。

4月22日（1・6・24）

何かを取って欲しいという仕草をした時に、「自分でとんなさい」と言うと言自分で取る。ごみを手にして差し出した時に、「ごみかごにすてていらっしゃい」と言うと言捨てに行く。髪に髪かざりをつけて欲しいと要求したので、つけてやり「鏡を見ていらっしゃい」と言う言、鏡台の前に行き、髪の方に自分の手をやって喜んでた。

4月23日（1・6・25）

テレビが映っているのを切ったりすると、泣いて怒る。プラグを手にして、自分でコンセントに差し込む。

てんとう虫や蟻を与えると、異常な興味を示す。動くためらしい。手で追いかけたり、つかんだりする。

小学生の女の子達が遊びに来て、遊びの中で消しゴムを使った。真保も、画用紙にこすりつけたり、紙をはいだりしていたが、そのうち、顔や髪の毛をこすり始めた。せっけんを連想したのかもしれない。

4月24日（1・6・26）

後ろから押せるように長い取っ手がついたドライブ三輪車に真保を乗せて買物に出かけた。店の前に真保を乗せたまま、店内で買物をしていると、しばらくして、真保は「ママー」「ママー」と母親を呼んだ。

4月25日（1・6・27）

滑り台の下に、ストーブ用の灯油タンクを置いている。真保は灯油タンクに上り、そこから、滑り台の滑る部分に上る。とにかく、大人がびっくりするような行動をとる。それだけ活動の幅が広がっているということなのだろう。

ソファーに座っている時に、突然自分の足と、父親の足を指差して、「あし」と言った。まだ、「あち」と聞こえる。

4月26日（1・6・28）

下敷きの飛行機の絵を見て「こーき」「こーき」と言った。生成言語の水準が上昇している。

4月27日 (1・6・29)

買物中でも飛行機を見ると「こーき」と言う。
テレビの「パジャマでおじゃま」の曲を一部歌う。

4月28日 (1・6・30)

小学生の女の子三人が遊びに来た。母親が台所で仕事をしている間、その子達とお店屋さんごっこをして遊んでいた。食べ方、買い方、家の入り方などを真似しながら遊んでいる。

1歳6か月児は、運動機能では、灯油タンクに上り、そこから、滑り台に上るなどの様に、大人がびっくりする様な思いがけない行動をとるようになる。それだけ活動の幅が広がっている。言語では、「あち(足)」「こーき(飛行機)」などと言ひ生成言語の水準が上昇しており、物と言葉との結びつきは強まっている。歌の一部を歌うようにもなる。自分が笑われたら怒ったり、人の失敗を見て笑ったりなどの情緒の分化も見られる。両親の日常生活における行動をしきりに模倣する。

(19) 1歳7か月

4月29日 (1・7・0)

まだ母乳を与えていたのだが、断乳、即ち、完全な離乳をはかり、母乳を与えないようにすることになった。乳首にからしを塗り、お乳を求めた時にその状態で乳首をふくませた。すると、顔をしかめて泣き出した。もう片方の乳房をふくんだが、同様に泣き出して、水をのんでやっとおさまった。入浴後にも同様のことを繰り返した。お乳をのませようとする、母親のブラウスを下に降ろし、首を横に振った。この断乳の方法は、乳首を不快体験に結合することによって、お乳をあきらめさせようとするものである。

4月30日 (1・7・1)

何か食べたい時は、人差し指を口にやる。水やパンやプリンを与えている。母乳は飲もうとはしない。パンを食べたい時、「パン」と言うことがある。

5月1日 (1・7・2)

朝起きて、母乳は全く欲しがらず、パンと水と牛乳を食べ飲み、それから、朝食を食べる。昼間は、口さみしくなると、御飯や卵などを食べている。

大人用のトイレに興味を示し、母親が行くと真保も両手を足の方にやり、やりたいと要求する。母親が抱いてやらせると、手を洗って拭く格好をして出てくる。また、母親が鼻をかむのを見て、真保もちり紙でかむ格好をし、母親にも同じ様にやらせようとする。

5月2日 (1・7・3)

隣家の女の子のピアノ発表会を市民会館に母親と二人で聴きに出かけた。最初は、ホール内が暗くなっていたので恐がり、外に出たが、演奏が始まると体をゆすったり、手を動かしたりしながら楽しそうに聴いていた。そして、演奏が終了する度に、拍手をしていた。また、階段の昇り降りを何度も一人でしていた。

5月3日(1・7・4)

ゴム製のふくらんだ飛行機を手にして、「コーキ」「コーキ」と言う。また、おむつが入ったバケツの蓋を開けたので、父親が「おむつ、おむつ」と言うと、真保は自分がしているおむつのあたりを、「ウウウッ」と言いながら叩いた。人形の鼻を指さして、自分の鼻を指差したり、人形の頭を叩いて、自分の頭を叩いたりなど、言葉と物、物と物の対応ができていく。

夕食を食べている父親の手を引っぱった。何かと思ったら、掃除器のコードのプラグをコンセントから抜くことを要求した。抜いてあげると、掃除器のボタンを押して、コードを巻き込むことを面白がって何度もしていた。場面の見通しができている。

父親の顔から眼鏡を外したりかけたりして遊ぶ。瞬間的に父親の顔が変わるのが面白いようだ。

父親と一緒に風呂に入ったが、せっけんを手にして、自分の体に塗りたくる。

5月4日(1・7・5)

母親の乳房をさわったりするが、胸のあたりまで口をつけ、それ以上はせず、手を口にやり、くらいといった表情を繰り返す。母乳のことは、忘れ切れているわけではないようだ。

5月5日(1・7・6)

真保はプリンを食べていたが、そのスプーンをキューピーの口元に運び、食べさせる格好をする。キューピーにサングラスをさせて喜ぶ。

5月6日(1・7・7)

「真保ちゃんねんねしたいの」と尋ねると、手を耳の横にやり、首を傾け寝る真似をする。また、母親が左右のどちらかの掌の中に石を隠して差し出すと、喜んでどちらかを開かせる。必ず前回あった方を先に開かせる。即ち、前回のことを記憶している。

高さ15cmの積木箱から跳び降りる。必ず右足を先に着地する形をとる。

5月7日(1・7・8)

断乳以来、乳房にたまる母乳は手で搾って出していたが、今日あたりは、もうあまり痛みもなく、搾らなくても、張らなくなってしまった。真保も、よく食べる様になり、動きも活発になってきた。しかし、一度にたくさん食べることはできないためか、一日に4回の食事をとっている。外出から戻った時は、果物、パン、プリンなどの間食をとっている。人差し指を口にやる動作は続いている。

母親を呼ぶ時は、「ママ」とはっきり言うようになった。

テレビのスイッチを押すことはできていたが、今日はひねって引っぱることができた。

5月8日(1・7・9)

家の前の公園で、3歳の男の子が声をかけてきたので、一緒に遊んだ。ジャングルジムで追いかけっこをし、男の子が逃げると、真保は追いかけた。

母親が「大きな栗の木の下で」を歌うと、母親と一緒に動作をやった。

5月9日(1・7・10)

母親が「アイアイおさるさんですよ～」と歌うと、真保も「アイアイ～」と歌う。メロディもか

なり正確に模倣できている。

父親の入浴中に、母親にサングラスをかけさせ、スタンドの電気をつけさせ、新聞をひらかせる。母親が新聞を読む格好をすると、手を叩いて喜ぶ。父親のポーズを母親に模倣させて喜んでいる。風船遊びを好む。一人で飛ばして遊んだり、母親と一緒にやったりする。げんこつや手の甲で風船をレシーブして打ち返しては、うまくできると手を叩いて喜ぶ。

食欲は増大している。今日は、バナナ2本半、ゆで卵の白み3個分、御飯1杯、パン、豚肉、キャベツ、きゅうり、コーンの罐詰1個、牛乳、味噌汁などを食べた。

5月11日 (1・7・12)

棒状のステックチーズのビニール包装をとり、チーズを裸にすることができる。面白がって、食べないのに3本も裸にした。また、カーデエガンを一人で脱いだ。

5月12日 (1・7・13)

飛行機が飛んでいるのを見ると手を振る。家の中に居ても、音がすると窓から飛行機を見つけ手を振る。かなり遠い距離の物体でも見えている。

5月13日 (1・7・14)

絵本「からすのパンやさん」(かこさとし、偕成社)の表紙に描かれたパンを指差して、「パン」と言った。

ボールを投げる時、左足を上げる。子ども達がする格好を覚えたようだ。

5月14日 (1・7・15)

母親を模倣して覚えたのか、ボールを投げる時に、「いい」と相手に聞いてから投げる。

テレビの縫いぐるみによる人形劇「ブンブン」は、ブンブンと呼びかけることでスタートするが、真保も今日初めて「ブンブン」と言った。また、子ども番組のテーマソングが流れ出すとはしゃぎだす。いつも口ずさんでいる歌が流れ出すと、真保は歌に合わせて、真保なりに歌っている。

5月15日 (1・7・16)

自分のシャツの左腕に刺しゅうされた車を指差して、「ポッポ」と言う。母親とキャッチボールをする時に「いい」と言う。母親が「いいわよ」と言うのを繰り返す。コミュニケーションが成立している。

5月16日 (1・7・17)

大便が出ると、手でお尻を押さえて知らせる。

自分で鼻をかむことができる。「ふんふん」と言いながら、紙を鼻にあて、かんだ後ごみ入れに捨てる。

5月17日 (1・7・18)

高さ32cmのソファから一人で跳び降りた。右足を先に着地する形をとる。

母親が「握手でこんにちわ」を歌って動作をつけて遊んだ後、こけしなどを使ってやったところ、喜んで真保も模倣した。

隠れんぼでも「いい」を使う。鬼になって「もういいかい」の代りに「いい」と言う。また隠れた時も、「もういいよ」の代りに「いい」と言う。また、絵を描いていた時に、紙以外の所に描こうとしたので、母親が「紙に描いてちょうだい」と言うと、自分の「髪」に手をやった。同音異語が混乱しているようだ。

5月18日（1・7・19）

子どもに対して人見知りはないが、大人の人に見つめられたりすると、今でも泣く。今日も店のレジの人が、「おなまえは」などと問いかけたところ、母親のスカートの後ろに隠れて少し泣いた。母親や父親の靴やサンダルなどを、自分ではいては玄関で遊ぶ。13 cmの靴をはいているが、それより大きめの運動靴は一人ではくことができる。

庭にある大きな蕨を傘の様に手にして散歩に出るのを好む。

5月19日（1・7・20）

テレビのニュースに映った飛行機を見て「ヒコーキ、ヒコーキ」と言った。ところが、海上を疾走するモーターボートが映っても、同じ様に見えたのか「ヒコーキ」「ヒコーキ」と言った。

5月20日（1・7・21）

朝10：30～11：00、母親が買物に出かけた。父親と一緒に留守番をしたが、真保は平気でテレビの「セサミストリート」を見ていた。母子分離が生じている。

庭で隣の小学校1年生の女の子の遊んでいる声が聞こえると、「ちいーちゃん」と声を出して呼んだ。まだ「ちいーたん」に聞こえることもある。

5月22日（1・7・23）

座布団を2枚重ねた上に座り、食卓に並べられた食器から、箸を用いて一人で食事をする。

5月24日（1・7・25）

夜、父親と鬼ごっこをした。鬼になった父親が、「もういいかい」と言うと、「いい」または「うん」と返事する。「うん」と返事するのは初めてのことだ。

5月25日（1・7・26）

おしゃべり電話で「はい」と受け答えをしていたのに加えて、「うん、うん」と話を聞いている様な調子で言うようになった。

最近、家の前の公園で3歳3か月の男児、2歳4か月の女児、1歳8か月の女児と遊ぶようになった。公園の遊具での並行遊びや、母親を介しての遊びが多い。同年齢集団による遊びが始まっている。

新聞の男がベッドに横になった写真を指差して、両方の掌を合わせて耳の側に持っていき、ねんねの動作をした。身振り言語を用いている。

5月27日（1・7・28）

午後、両親と三人で函館公園に出かけた。乗物では特に飛行機に興味を示した。父親に抱かれて三人で乗ったが平気だった。各動物にも大きな興味を示し、金網の目から、再々にわたって手を

突っこもうとした。また、階段を昇り降りすることを好む。

夜、絵本の熊の絵を見た真保は、ヘアピンを父親の所に持って来た。何だろうと思ってヘアピンを見たら、その飾りの部分が熊の顔になっていた。対応させることに興味を持っている。

5月28日〔(1・7・29)

隣家の小学生の女の子二人と一緒に、庭で土いじりをして遊ぶ。シャベルで土を掘り植木鉢に入れる。穴を掘るのが楽しいようだ。

1歳7か月児は、運動機能では、高さ32cmの所から跳び降りたり、座布団に座り食卓の上の食器から箸を使って一人で食事をしたりできる様になっている。言語では、「パン」「いい」「ポッポ」「うん」などを新たに使用する。身振り言語の使用もあり、言葉と物、物と物との対応にも興味を持っているが、「紙」と「髪」の様な同音異語の区別ができないといった一面を持っている。対人関係では、子どもに対しては人見知りはしないが、大人に見つめられたりすると泣く。母子分離も生じ始め、同年齢集団による遊びも始まっている。その他に、断乳した結果、食事の量は増大している。

文 献

- (1) 藤友雄暉 「0歳児の心理学」351-383頁 北海道教育大学紀要(第一部c) 第30巻 第2号 1980年
- (2) 藤友雄暉 「1歳児の心理学(I)」207-224頁 北海道教育大学紀要(第一部c) 第33巻 第1号 1982年

(本学助教授・函館分校)